

平成 30 年 第 10 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(キャリア協) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

※今回のテーマはお決まりのパターンを少しアレンジしたものです。ベースは、「短期・中期的な視点でライフキャリアプランが描けていないこと」になりますが、定年退職後の「セカンドキャリアビジョン」という視点を加える必要がありそうですね。そもそも、「仕事」には 2 側面の目的がありますね。ひとつは、「経済的基盤としての仕事」つまり、お金を稼ぐという目的であり、もう一つは、「自己実現としての仕事」で、本来やりたかったこと、なりたかったものになるという目的です。どちらも同時に満たされればいいですが、時期や環境などにより、そのバランスが変わってきます。そのあたりがキーになりますね。解答は多様ですが、いずれの方法においても、一貫して述べていくことが重要になります。

【設問 1】 逐語の空欄 A で、キャリアコンサルタントとしてあなたなら CL1 の発言を受け、どのような応答をするか記述せよ。(10 点)

「定年後の仕事に際して、自分は他の会社でも通用するのか、また、会社に残っても地方に飛ばされたり収入減になるのではと不安なのですね。収入が減るとどうしたらよいものか、とはどういうことでしょうか？」
(2 行)

【設問 2】 キャリアコンサルタントとして、あなたが考える相談者の「問題」を記述せよ。(10 点)

「今までの自身の仕事に関して棚卸しすることなく、自分が他の会社で通用するかと過小評価をしているなど自己理解不足であり、また、定年後、会社での継続的な仕事について確認することなく不安になっており職務内容理解不足である。さらに、今ここでの視点で定年後の仕事について考えるため、将来的なキャリアビジョンや、マネープランを含めた短・中期的ライフキャリアプランが描けず不安になっていること。」
(4 行)

【設問 3】 この事例の展開に関し、以下の問いに答えよ。(30 点)

(1) Z さんに対しどのような提案を行うか。逐語の空欄 B に入る、あなたが考える提案の要点を 2 つ記述せよ。

- ① 「マネープランを含めた、短・中期的なライフキャリアプラン」
- ② 「自分自身の専門的知識や資格などのスキルの棚卸し」

※「ご自身のキャリアアンカー」または、「ライフキャリアレインボー」でも記述できそうです。

(2) 設問 3 (1) で解答した 2 つのうちいずれかを選択して、キャリアコンサルタントとしてあなたはこの面談で、この後どのような働きかけを行うか、具体的に記述せよ。

① のケース

今までやりがいを持ち前向きに働いてきたことを労い、まずは、定年まで、定年後から教育費終了まで、年金開始後、というように、短・中期的なマネープランを含めたライフキャリアプランを作成してみるよう勧める。併せて、会社に残るとい選択肢について、その働き方や収入などを人事に相談することで明確にし、マネープランと照らし合わせて検討してみるよう促す。会社に残らないのであれば、新たな職業について必要十分条件を書き出し、職務の棚卸しにより明確にした自身の強みやスキルも含め、それに見合う仕事について検討することを提案する。最終的に、相談者のセカンドキャリアについて前向きに選択できるよう支援する。(6行)

参考情報

※ 今回の試験の中心になるテーマは、企業側の「進路選択制度」導入を踏まえての出題ではないかと考えられます。定年を迎える社員の中には、「定年後も何らかの形で仕事は続けたい」と考える一方で、「フルタイムは体力的にきつい」「時間のゆとりを持ちたい」と考える方もいます。企業側も、全社員の 60 歳以降の雇用が負担なのであれば、“複数のゴール”を提供する「進路選択制度」を導入するという動きがみられます。「進路選択制度」には以下が挙げられます。

【進路選択制度（人事）岩出（2009）】

- ・早期退職優遇制度（選択定年制度）
- ・転職支援制度
- ・関連会社への出向・転籍
- ・独立援助制度
- ・職種転換制度